

令和7年度学校経営方針

I 学校の状況

学級数	8	児童・生徒数	67	教職員数	15
メールアドレス	toyosaka-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/toyosaka_sho/				

II 教育目標

夢いっぱい ふるさと 豊栄小学校

III 経営理念（ビジョン）

本校の使命（Mission）

5年・10年先の未来を思い描き、1年後、どんな自分になりたいのか（夢）に向かい、何をしていくのか（目標）をもち、自ら課題を発見し、学ぶとともに、他者と協働して解決しようとする児童の育成

目指す学校像（Vision）

- 1 夢の実現のために、目標に向かって努力する児童を支援し、意欲的・組織的に活動する教職員集団の育成（一人一人の児童に寄り添う）
- 2 生活科・総合的な学習の時間等を中心とした横断的なカリキュラム・マネジメントによる、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、児童の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上（探究的な学びとICTの利活用）
- 3 社会に開かれた教育課程の実現のために、コミュニティ・スクール及び小中一貫教育を展開し保護者・地域・関連機関との連携を図り、信頼される学校づくりの推進（地域の魅力発信）

IV 目指す児童像（目指す豊栄小の児童の姿）

「夢と志」をもち、郷土に学び、豊かに自己を表現する子供の育成（9年間で目指す子供の姿）

進んでやる子（自ら考え、自ら学習や活動に取り組む子）

優しい子（人と仲良く活動する子）

やり抜く子（最後まで粘り強くやり抜く子）

V 本校で育成すべき資質・能力

自ら伸びる力（主体性）

コミュニケーション力（協働性）

実行力（地域の魅力発信）

VI 今年度の重点

（1）「自然科学」に焦点を当てた教育活動の推進（探究的な学びの2年目となるカリキュラムの完成）

○ 異学年交流・地域を巻き込む教育課程（自然科学）の編成

・低学年（生活科）・・・1年（植物名人） 2年（野菜作り名人）

大単元名「豊栄ライフラパーズ」

・中学年（総合的な学習の時間）・・・3・4年（オオサンショウウオなどの実態調査・自然環境保護）

大単元名「豊栄ネイチャーリサーチャー」

・高学年（総合的な学習の時間）・・・5・6年（豊栄の食プロフェッショナル・ものづくりプロフェッショナル）

大単元名「豊栄クリエイター」

中1・小6でセントラルマルシェで発表（4月）

（2）小中一貫教育の推進（学力の向上・探究的な学びの時間・外国語・ICT活用）

帯タイムの変更（学力向上のための「ぐんぐんタイム」の設定、ICTに慣れるためのオト丸タイム金曜日の設定）

中学校の教職員による入り込み授業（音楽・外国語・その他の教科）

（3）横断的なカリキュラム・マネジメント

3年・・・福祉教育（福祉体験に認知症サポーター研修カリキュラム・手話体験）

4年・・・防災教育（豊栄町安全マップ・砂防出前講座）

3・4年・・・豊栄町発表会「オオサンショウウオ」（中・高・大学・地域と合同）
地域コーディネーターとの細やかな連携

5・6年・・・単元開発の推進

地域の有志の方との連携（産業推進者・J A・自治協・コミュニティ・スクール）

（4）確かな学力・・・自ら伸びる力（主体性）

☐ 学びに向かう力

☐ 学習規律・家庭学習の確立

・家庭学習の手引きの活用、自主学習のすすめ

☐ 読書活動の充実

☐ 探究的な学び

☐ I C T活用

☐ 自然科学

（5）豊かな心・・・コミュニケーション力（協働性）

☐ 協働・優しい心

☐ 東広島スタンダードの徹底（挨拶・言葉遣いを中心に）

☐ 特別支援教育の推進

☐ 豊かな言葉「オト丸575」

☐ ふるさと学習

（6）健やかな体・・・実行力（地域の魅力発信）

☐ 目標設定・振り返り

☐ 体力の向上（なわとび検定、N1 グランプリの実施）

☐ 業前体育（毎週金曜日）、ロング昼休憩の活用（毎週火曜日）

☐ 早寝、早起き、朝ごはん

☐ 食育、安全指導

（7）信頼される学校・・・目指す教職員像

☐ 児童の夢の実現のために、教職員も自ら考えて行動し、協働しながら愛情をもって一人一人にかかわる教職員（挑戦・傾聴）

☐ 児童に求めることは、自らも率先して行う教職員（挨拶・掃除）

☐ 根気強く、徹底するまでやり切る教職員（凡事徹底）

☐ 保護者・地域社会の願いとともに教育活動を創造する教職員（地域を知る→地域とともに）

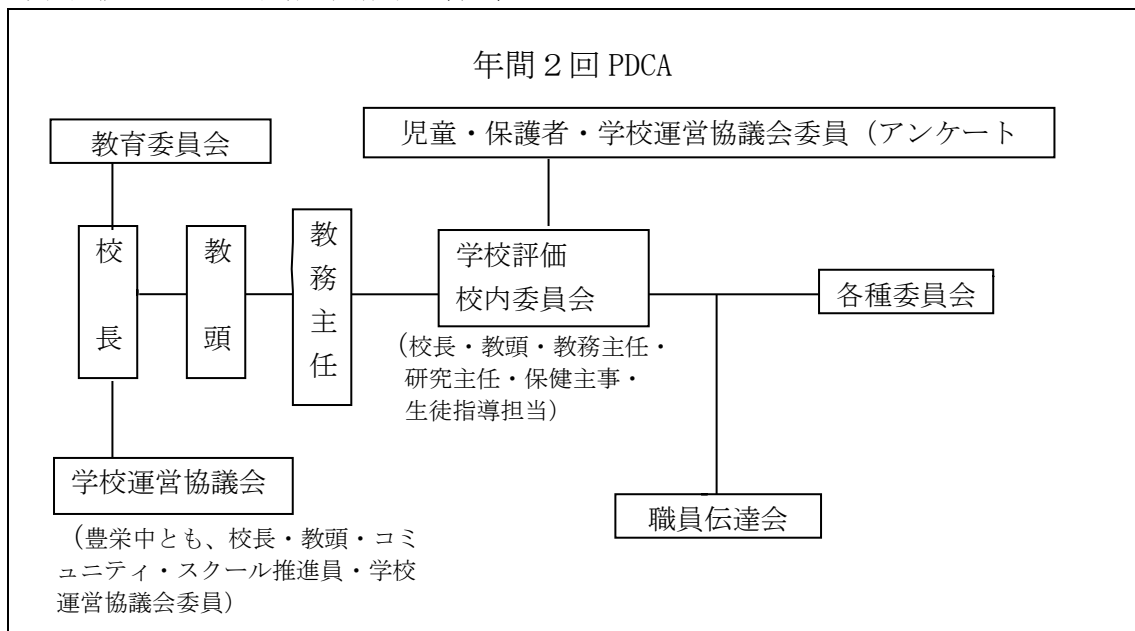
Ⅶ 学校評価（中期経営目標及び短期経営目標）

項	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目
確かな学力	1	基礎・基本の定着を図り、かかわり合いながら自ら学ぶ児童を育成する。	児童実態に基づいて学力の定着・向上を図る。	・学習規律を徹底させる。 ・わくわくタイム（教職員の話を聞き取る力） ・オト丸タイム（火…読み語りと学力補充、金…ICTスキルアップ）・ぐんぐんタイム（金曜日5校時国算学力補充）に取り組む。 ・児童の課題に応じた個への支援を図る。	・国語科・算数科における単元末テストの平均点 80 点以上の児童を 80%以上にする。【80%以上】
			主体的・協働的に取り組む児童を育成するための授業改善を行う。	・生活科・総合的な学習の時間において自らの課題を追究する探究的な学びを展開する。	・生活科・総合的な学習の時間に主体的・協働的に取り組む児童の意識調査において肯定的な割合を 90%以上にする。【90%以上】
				・ICT を効果的に活用し、個別最適な学びを工夫する。	・ICT を授業・学級活動・校務等に効果的に活用できる教職員の割合を 80%以上にする。【80%以上】
豊かな心	2	ふるさとに愛着をもち、夢を実現しようとする児童を育成する。	東広島スタンダードを定着させる。（挨拶・言葉遣いを重点）	・生活目標で「東広島スタンダード」4項目に取り組ませる。 ・継続的で段階的な挨拶と言葉遣いの指導を学校全体で行う。	・東広島スタンダード4項目のうち自己評定で3つ以上達成する児童の割合を 80%以上にする。【80%以上】
			自分や友達、ふるさとを大切にする児童を育成する。	・児童（自分・友達）のよさや達成感・可能性を記入するカード、発表等の取組を行う。	・「自分にはよいところがある。」の項目と「友達・ふさとを大切に感じる。」の項目の肯定的回答の平均を 90%以上にする。（児童アンケート）【90%以上】
健やかな体	3	楽しみながら運動能力を高め、心身ともに健康な児童を育成する。	体力の増進と運動能力の向上を図る。	・業前体育や体育科授業、ロング昼休憩を活用し、体力づくりをする。	・N1（連続縄跳び）を達成する児童を 65%以上にする。【65%以上】
			健康の保持増進への意識を高め、校内外での生活力を高める。	・廊下・階段歩行を安全に行わせ、給食安全（手洗い・マナー等）を徹底する。	・「廊下・階段の安全歩行」「衛生で安全な食事」に関して習慣化できた児童を 90%以上にする。【90%以上】
信頼される	4	保護者・地域・関係機関に信頼される学校づくりを行う。	児童の活躍する場を確保する。	・各種通信や映像の配信、メディアへの投稿等を通じて、児童の活躍する姿や作品を発信する。	・保護者アンケートによる肯定的評価の割合を 90%以上にする。【90%以上】

			働き方改革を推進する。	・勤務時間の縮減へ向け、業務改善を推進させ、児童に向き合う時間を確保する。	・教職員アンケート「子供と向き合う時間の確保」の肯定的評価の割合を95%以上にする。【95%以上】
--	--	--	-------------	---------------------------------------	---

VIII 学校評価

1 学校評価システムの組織（構成者を含む）



2 自己評価・学校関係者評価の実施計画（公表方法を含む）

時期	自己評価	外部評価	公表方法等
4月	・校長による学校経営計画及び学校評価自己評価表の作成 ・学校評価校内委員会において評価項目等の確認と教職員へ周知 ・参観日、保護者説明会、学級懇談会実施	・経営計画及び自己評価への取組について説明 ・経営方針（学校・学級）と評価計画について説明	校長だより配付（保護者・地域等） HP 公開 プレゼンテーション 経営方針資料配付
10月	・保護者アンケートの実施 ・学校評価校内委員会において、中間評価の実施と後期 ACTION プランの策定 ・学校運営協議会の意見を踏まえ、後期 ACTION プランの実施	・学校運営協議会において、中間評価と後期 ACTION プランについて意見交流	校長だより配付（保護者・地域等） HP 公開
2月	・保護者へのアンケート実施 ・学校評価校内委員会において、自己評価の実施と次年度 ACTION プランの策定 ・学校運営協議会の意見を踏まえ、次年度の学校経営計画に活かす ・学校評価自己評価表等の報告（教育委員会）	・学校運営協議会において、最終評価と次年度 ACTION プランについて意見交流	校長だより配付（保護者・地域等） HP 公開

